

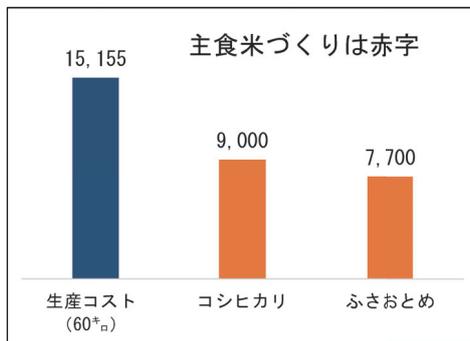
米価暴落 県の支援を

コメづくりはやめたい…農家から悲鳴

2021年産の米価大暴落が農家経営を脅かし、コメ農家から悲鳴が寄せられています。とりわけ、国や県が推進してきた大規模法人ほど大打撃をうけ、「30haにコメ作りを拡大してきたが、経営が維持できない」「もうコメはやめたい」などの声も寄せられています。

県内8市町は、独自に農家への支援を打ち出していますが、県は助成すれば過剰作付けを招きかねない、さらなる米価下落をもたらす、として農家への支援を拒みました。

千葉県が誇る稲作、ブランド米の栽培が根底から突き崩されかねない事態です。



2021年出荷時に農家に支払われた仮払金・概算金

○コシヒカリ (60^{キロ}) 7800円～9000円
(前年比▲3300円)

○ふさおとめ (60^{キロ}) 6400円～7700円
(前年比▲3500円)

コメ生産に必要なコスト (60^{キロ} 2019年統計)

○15155円 (肥料、農薬、家族労働費など)

家族労働報酬 時給757円

県の最低賃金 (953円) 大きく下回る

千葉県の稲作における1日あたり家族労働報酬(直近データ2019年)は6053円です。時給換算757円で、最低賃金(953円)以下です。

県は「自作地代」「自己資本利子」があるから所得は、もっと高い、と言います。しかし、これは農地の土地代や、その利子を「収入」と見なしただけの数字で、実際に、農家にお金が入るわけではありません。

共産党…せめて2017年の所得補償制度水準 (9.4億円) の支援を

県…飼料用米等に取り組んでいる。

それなりの所得が確保している、と後ろ向き

予算委員会

日本共産党の加藤英雄県議は、2月県議会予算委員会で、米価暴落によって窮地にたつ主食米生産農家への支援と、公立小・中学校や県立学校で深刻となっている教員未配置の早期解消をもとめました。



学校に先生がない…教員未配置 年度当初から採用しておくべき

「新学期スタート時点から先生がない(定数内欠員)」「産休・育休等の代わりが見つからない(代替講師)」など、いま学校現場は大変です。

速やかな解消へ 日本共産党の提案

1. 定数内欠員の解消

正規教員早期退職、採用予定者の辞退、子ども転入による学級増を見込んだ採用募集人数にする。

2. 年度途中の産休、育休などの代替講師確保

年度初めから県独自の教員を採用して、必要になった学校に配置する。
(県も、制度上は可能と認めました)

